

「パヤオ県・チェンライ県 MDT 分析ワークショップ」

当プロジェクトの目的には中央レベルの MDT 強化だけでなく地方レベルの MDT 強化もあります。5 年間のプロジェクト期間の前半は中央 MDT の強化に集中していますが、後半には地方の強化にも取り組む予定です。

プロジェクト 3 年目となる来年度は、いよいよ地方 MDT の強化に着手する予定です。そこでその準備として、パイロットの対象地であるチェンライ県とパヤオ県の MDT の成功点と課題を明らかにするために、8 月 24・25 日パヤオ県で、26・27 日チェンライ県で、それぞれ 2 日間ワークショップを実施しました。

今回のワークショップでは、各県の MDT メンバーに集ってもらい、保護の 5 つの段階（救出、回復、訴追、送還、社会復帰）毎に、MDT として成功した活動、成功につながった要因、課題と今後取り組むべき活動について話し合ってもらいました。

参加した MDT メンバーの顔触れは各県の MDT の特徴を反映して若干異なりました。パヤオ県では郡レベルの MDT の方が多く、中には 120km も離れた遠くの郡から 2 日間通ってくださった方もありました。チェンライ県は MDT の各専門分野の方が参加されましたが、今回は警察の方の参加が特徴的でした。

パヤオ県のワークショップで明らかになったことは、コミュニティの重要さでした。特にコミュニティのボランティアや女性グループは、被害者の発見、回復、送還、社会復帰の各段階で大きな貢献をしていることが明らかになりました。県レベルの MDT は主に政策に関わっており、実際に被害者と接する機会が多いのは郡やその下の行政区の MDT なのです。パヤオではこれまで児童保護や家庭内暴力に対し MDT で対応してきており、その経験が人身取引対策に

も生かされていることが分かりました。コミュニティの現場では人身取引だけに特化して取り組んでいるわけではないのです。



内陸県のパヤオと異なり、北端にあるチェンライ

県はラオス、ミャンマーと国境を接しています。そのため外国人の人身取引被害者が多く、参加した MDT メンバーは人身取引事例を扱った経験が豊富で、各自が各機関の担当すべき事項をきちんと理解しているように見えました。他方、MDT のチームとしてお互いに他の機関の任務を理解し、調整しながら取り組むという点では、まだ課題があるようでした。

今回のワークショップでは、以上の MDT メンバーによる熱心な討議のほかに、2 人のリソースパーソンを招いてお話を聞くセッションを設けました。一人は被害者として MDT からサービスを受けた方です。実際にどのようなサービスを受けたのか、その過程でどのような情報が不足していたので不安に思ったかなどについて、質問に答える形で、被害者自身の言葉で話してもらいました。法律に則り被害者が分かる言葉で適切な説明をすることの大切さと困難さが実感されました。

もう一人の講師は泉田スジンダさんです。長い間日本でタ



イ人の人身取引被害者を支援されてきた方です。スジンダさんは日本における人身取引被害者の実態を具体的に分かりやすく説明して下さいましたので、参加者全員が彼女の講義に強く引き込まれて聞いていました。

海外で被害に遭った被害者の方、中でも性的搾取の被害にあった方は、タイに戻ってきても実際にあったことを話されません。悪夢のような日々のことは思い出したくも話したくないのです。スジンダさんは、コミュニティで被害者を受け入れる立場にある方には、是非実態を知って欲しい、被害者がどのような思いをしているかをコミュニティの人びとに伝えてほしいとの思いを込めて話されました。

実は、スジンダさんからは、昨年度の本邦研修の折にお話しをうかがう機会がありました。その時の参加者から、このような話は是非タイのコミュニティの人にも聞かせたいという要望が出されており、それが今回実現したものです。プロジェクトの活動がこのようにつながっていくのはうれしいことです。

今後は、今回のワークショップの成功要因と課題を分析し、成功要因は他県の MDT にとって参考になるようにまとめたいと思っています。また、今回あげられた課題と今後必要な活動は、来年度以降のプロジェクトの活動の計画に当たり提案し、検討し、県レベルの MDT の強化につなげたいと思っています。このような形でプロジェクトが、今回のワークショップに熱心に参加して下さった方々の思いにこたえることができることをうれしく思います。

今後の予定

- 9/9 第20回 Steering Committee
- 9/30 第3回ワーキンググループ

パヤオ：グループディスカッション



チェンライ：グループディスカッション

